

経験談

陳宏燦

これから大学院に進学する予定の学生の皆さんのために、この文章を通じて個人的な経験とアドバイスを述べたいと思います。皆さんの専門と状況がさまざまなので、できるだけ共通の部分に絞り込んで述べるつもりです。

一、簡単な自己紹介

私は海南大学の留学プログラムに参加して、コロナの影響で2020年11月に来日しました。そして、2021年5月にオンラインで大学を卒業しました。大学の専門は金融でしたので、日本の経済学研究科を志望していました。慶応義塾大学の受験には失敗しましたが、神戸大学と大阪大学の経済学研究科に合格しました。

二、言語学習について

まず、日本語能力については、経済学ではN1の取得が必要とされています。小論文が不要なので、文章を書く能力には重点がおかれていません。しかし、研究計画書や面接があるので、やはり日本語をしっかり勉強することは必要不可欠です。私の場合、来日する前から受験勉強のために日本語を勉強していたので、12月のN1に合格しました。それからは、日本語の運用能力を重視するように勉強してきました。

次に、英語能力については、日本に来る前にTOEFLの点数を準備しておいた方がおすすめです。もし英語が苦手な場合、TOEICでも構わないのですが、出願できる研究科の数は専門によって減少します。経済学の場合では、東大、京大、一橋、横浜国立を受験するためにはTOEFLの点数が必要とされています。英語の資格を取る前に、志望校のレベルや募集要項を確認したほうが良いです。勿論、理想的な点数も志望校によって変わります。私の受験経験において、この点を見過ごしていたことに気づかされました。前もってTOEFLの重要性に気づかずに、来日してから受けましたが、なかなか難しかったです。それ故、TOEICに妥協してしまいました。とは言っても、TOEICで高得点を取るのも決して簡単ではありません。

三、専門知識の勉強について

筆記試験のある研究科を受験する場合、専門知識をどの程度把握しているかが圧倒的に合否を決定する鍵になると思います。筆記試験に合格してから面接試験の受験資格がもらえる場合は勿論ですが、たとえ同じ日に筆記試験と口頭試験が受験できるとしても、筆記試験の点数のほうがより重視されています。つまり、言語のほか、専門知識の勉強も油断してはいけません。

皆さんはいろいろなところから力を借りることができると思いますが、是非それらの資源を無駄にしないで、自分の目標に応じて有効活用してください。受験は知識量の豊富さ以外、情報を手に入れる力

も必要になります。一人で考えるより、できるだけ多くの情報を集めて念入りに準備すれば、合格の確率が確実に上がると思います。「チャンスは準備された心にもみ降り立つ」という言葉は何に対しても通じますが、日本の研究科を受験する場合はなおさらです。

常に自分の状況を反省し、今の自分にとっては何が欠けるのか、どんな目標を設定すればよいのかを認識してから、合理的な対策を立てて頂ければと思います。最後に、目標は高く設定したほうが良いです。何故なら、どの研究科にしても、簡単に受かることはないからです。精一杯努力しないと、落ちる可能性が高いのです。ですから、そんなに努力したのであれば、良い大学に行けるチャンスは広がるはずです。

四、メンタルについて

留学の道は決して簡単なことではありませんので、皆さんもきっと落ち込む時もあると思います。また、自分が合格できる大学の選択に迷い、何度も失敗して自信を失うかもしれません。私にも、一度筆記試験に落ちたことがありましたので、その影響でほかの大学を準備するときに心細くなってしまったことがありました。

ここで申し述べたいのは、自己を放棄しないでください。たとえ失敗してばかりだとしても、消極的に物事を考えてばかりいるのではなく、失敗の経験を踏まえ、それをステップにすることを考えるべきです。日本の大学院を受験するには、いろいろな可能性があります。たとえば、私は大阪大学に合格しましたが、青山学院大学にも必ず合格できるとは限りません。逆に、青山学院大学に落ちたとしても、大阪大学に受かるかもしれません。ということは、何度も失敗したとしても落ち込む必要はないのです。重要なのは、自分がどこに準備不足だったかを見つけ反省することです。受験する前に、自分の努力と準備次第では、合否両方の可能性があることを認識しておいて下さい。自分にできることは、最善を尽くして受かる可能性を上げることに他ありません。結果がどうなるのかは、やってみないとわからないのですから。

最後に、亜細亜友之会外語学院の先生方々にとっても感謝いたしております。普段の授業は勿論、出願にしてもお力を貸して頂き、誠にありがとうございました。

これから受験する皆さん、ぜひ頑張ってください。